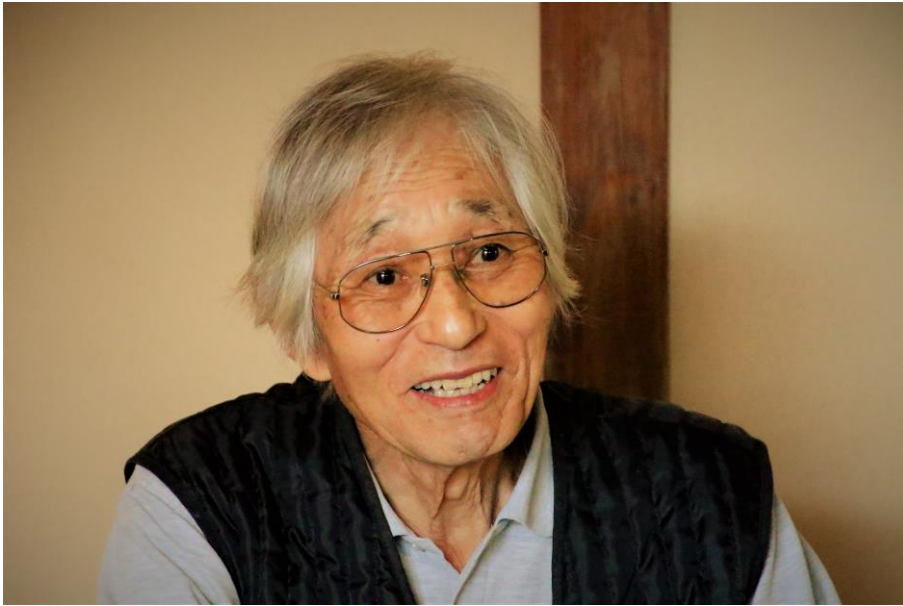


多摩市農業委員会だより



内田農業振興会農業者功労章を受章された高橋勲さん。おめでとーございます。この度、お時間をいただき、多摩市の農業等について、お話を伺いました。

たかほしいさお 内田農業振興会農業者功労章受章の高橋勲さんに聞く

高橋さんは、多摩市の和田地区で約一町(1万㎡)の広い農地を、息子さんと娘さんの3人で耕作され、野菜を中心に、果樹・花卉・植木など、多岐にわたる作付けをされています。

古くから代々農家を営む高橋さん宅。勲さんは以前、お父さんと畑を耕作する傍ら、自宅の向かい側で書道教室を開き、先生をされていました。今ではお弟子さんが場所を変えて教えているとのこと、書道道具も譲り、農業に専念されています。

昔はコメ・麦が主体でしたが、田んぼも畑にして野菜主体になり、20年程前までは市場にも枝豆などを出荷していました。現在の出荷先は、アンテナショップ「ポンテ」やいきいき市、農協、学校給食、朝市などです。農業イベント「農業ウォッチング

ラリー」でも収穫体験をさせて頂いた畑は、きれいに整備され、色々な野菜が栽培されていました。今回は台風19号の影響で畑にたまった水がなかなか引かず、被害を受けた作物も多いそうです。

いつもきれいな形の揃った野菜を出荷されるので、そのコツを伺いましたが「特別なことは何もしていない。普通にやっているだけだよ。」と謙遜されていました。しかし、非常に丁寧な仕事をされている畑を見れば一目瞭然、農業にかける愛情こそが秘訣なのだと分かります。

自宅近くには、最近は少なくなつた真竹の竹林のほか、ビニールハウスの中には見慣れない苗木がズラリ、よく見るとミモザでした。道路わきに大きなミモザが何本もある高橋さん宅、ハウス内にはほかにもダリア、金

魚草などが多く栽培されていました。これらは苗木、切り花として出荷しており、東京植木農協にも加盟されています。

今回、多岐にわたり精力的に生産されている様子を拝見させていただきました。大変驚きました。春、ミモザの咲くころに、また伺わせていただきたいと思います。

これからも親子仲良く健やかに、ますますのご活躍をお祈りしております。

(農業委員 増田 実生)



▲朗らかに農業を語る高橋さん

第42号
令和2年1月1日

編集・発行

多摩市農業委員会
多摩市関戸6-12-1
☎042-3338-6848

農業委員会 活動紹介



農業ウォッチングラリー



▲ネギの収穫風景

令和元年10月20日、多摩の農業PRと市民との交流を目的とする「農業ウォッチングラリー」を開催しました。台風19号や前日の雨の影響が心配されましたが、35名の参加者に、収穫体験や交流の場を提供することができました。

最初の訪問先は、一ノ宮の太田茂さんの畑で、ネギを収穫しました。太田さんからは「ネギは本来であれば12月収穫のもので、今は少し早めで若いですが、味は美味しいですよ」という説明がありました。

次に、一ノ宮の小暮和幸さんの畑で里芋を収穫しました。前日の雨で畑

がぬかるんでいましたが、収穫しやすいようにと、小暮さんが当日早朝にシートを敷いてくれました。おかげで掘り出しやすくなった畑から、驚くほど大きな里芋を手にした参加者からは、満足気な笑顔がこぼれていました。

最後は東寺方の高橋勲さんの畑で、小松菜を収穫しました。高橋さんからは「この時期に小松菜を育てるのは、気候の影響を受けやすいので、決められた日に収穫するのは難しいのですよ」という話がありました。隣



▲和やかな雰囲気での交流会

接する畑の作物は、台風で被害を受けており、このような中でも収穫させていたいただいたことに感謝しています。

3か所の収穫を終え、交流会場へ移動し、市内産の野菜と味噌を使った豚汁を食べながら、相澤孝一委員によるイベント「朝顔市」に関するクイズを行い、会場は和やかな雰囲気になりました。

今回は、参加者に収穫を楽しんでもらうだけでなく、積極的にコミュニケーションをとることを心掛けました。例えば、畑への移動中に、昔の多摩川の様子や地域の農業、歴史等を伝えたり、小野神社で、神社総代や神主さんから直々にお話を聞けたりしたことは、大変有意義であったと思います。

女性農業委員作成によるパンフレットも好評を博し、私自身も、本事業を

家族体験農業



▲落花生の収穫

通じ、地域の農業・歴史等をより深く知ることができました。この経験を、

今後の事業内容の充実につなげたいと思います。
(農業委員 新倉隆)

でしたが、意外にも作物はよく生育しており、収穫時の子どもたちは大喜びでした。「ポテトメイト」と名付けられた観察日記にさつまいもの絵を書いたり、作業内容を書き込んだり、作物に関連するクイズの答えに一喜一憂したりと、楽しく学習していた様子が伺えました。

収穫後に行った交流会では、同じ畑で収穫したさつまいもの入った豚汁を、青空の下、みんなでおいしく食べながら、「来年も参加したいね」と話していたのが、とても微笑ましく印象的でした。

(農業委員 萩原弘)



▲種まきの様子

昨年「家族体験農業」という名称に変更となり、通算で27回目を数える事業となりました。

毎年、農業委員会と5つの児童館の共催で、市内4か所の畑を使い、子どもたちと保護者などが参加して農業体験をする事業で、今年も5月の種植えから10月の収穫まで、計4回の作業を行いました。私は、連光寺児童館の親子のみなさんと、萩原清治さんの畑で、さつまいもと落花生を育ててきました。今年は6月の長雨と8月の猛暑に加え収穫期の台風襲来など、天候が不安定で大変

むかし



▲50年前の増田農業委員の分家付近



多摩市の農地の現在と昔を、写真で比較しながら紹介するシリーズです



今回紹介するのは、多摩市南野 2 丁目の50年前の写真です。

恵泉女学園大学から一本杉球場へ向かう道で、鎌倉道と呼ばれ、多摩市の関戸にあった軍事上の関所「霞ヶ関」を通らずに鎌倉へ向かう、本道の鎌倉街道よりやや西方にある脇道的な道路です。

鎌倉時代新田義興(義貞の息子)らの軍勢が行軍し、幕末には新撰組の土方歳三らが小野路の小島家に出稽古に通った道でもあります。

ニュータウン開発が始まった1973年に、町田市小野路町から多摩市に編入されました。

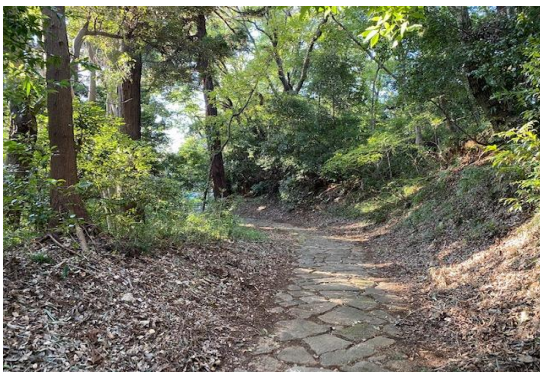
この地区には川がなく、10軒ほどの農家が点在し、写真の様に畑では陸稲(おかぼ)を作っていました。

(写真提供 = 農業委員 増田 実生、
文 = 農業委員 相澤 孝一)



いま

▲2019年11月撮影の増田農業委員の分家付近



▲今も面影が残る南野の鎌倉道
(2019年11月撮影)



▲50年前の小野路町4542番地付近
(今では住宅が密集し、畑の撮影はできませんでした)